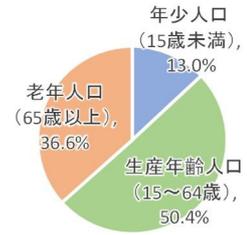


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	102 世帯	262 人	15 歳未満 (年少人口) 34 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 132 人
			65 歳以上 (老年人口) 96 人
約 50 年前	72 世帯	292 人	



西広畑遺跡では旧石器時代のナイフ形石器、北野寺西遺跡では弥生時代の円形の溝をもつ墓(円形周溝墓)がみつき、古くから人々の暮らしの場となっていたことが知られています。また、古墳時代後期に築造された東広畑古墳や東新田古墳では、大陸由来の技術で製作された銀象嵌大刀などの豊富な副葬品がみつっています。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組は辻川組に属しました。古文書によると、北野村は50戸に満たない小さな集落で、天神山(辻川山)の北から東に位置していましたが、生野街道が開けると市がたち、生野街道沿いへと町並みが広がっていったとされます。明治9年(1876)に西田原村の一部となりました。

氏神の北野天満神社は、学問の神様・菅原道真を祀り、鈴の森神社(辻川区)へと続く「学問成就の道」は合格祈願のスポットになっています。拝殿の「なで牛」の像は、頭をなでると頭がよくなり、お腹をなでるとお腹が丈夫になると伝わります。また、春には太宰府から取り寄せた紅白の梅など、多くの梅の花が境内を彩ります。



※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	1	石造五重塔	—	石造の塔で層塔と呼ばれるものの一つ。慶芳上人の墓と伝えられる。総高2m41cm、凝灰岩製で軸部の3面には種子が刻まれている。鎌倉時代中期のものと考えられる。 【県指定有形文化財】				●		
	2	如意輪観音坐像(地藏堂)	寛政10年(1798)	如意輪観音の石仏。台座正面には「奉造立如意輪観世音」、左右には造立年月日と共に「願主 北野村中」と記されている。				●		
	3	地藏菩薩坐像(地藏堂)	元文3年(1738)	地藏菩薩の石仏。台座正面には造立年月日・施主等とともに「奉造立尊像」と記されている。				●		
	4	経典供養塔(地藏堂)	宝暦13年(1763)	経典供養の石塔。地藏立像台石として使われている。正面には造立年・願主等とともに「奉納大乘妙典供養処」の文字が記されている。				●		
	5	三界万霊塔(地藏堂)	元文5年(1740)	石仏の台石。正面には造立年月日・施主等とともに「三界万霊有無両縁」の文字が記されている。				●		
	6	三界万霊塔(地藏堂)	宝暦5年(1755)	石仏の台石。正面には造立年月日等とともに「三界万霊」の文字が記されている。				●		
	7	石鳥居(北野天満神社)	大正元年(1912)	石鳥居。右柱正面には「奉」の文字と造立年月、左柱正面には「納」の文字と願主が記されている。				●		
	8	石灯籠(北野天満神社)	宝暦3年(1753)	石灯籠。正面には造立年月日と願主が記されている。				●		
	9	石灯籠(北野天満神社)	宝暦年間(1751~1764)	石灯籠。正面には「宝暦□□」と記されているが、下部は判読できない。				●		
	10	石灯籠(北野天満神社)	明治45年(1912)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「奉灯」、背面に造立年月が記され、台石の側面には願主等が記されている。				●		
	11	石灯籠(北野天満神社)	大正3年(1914)	石灯籠。「大正三年五月 奉納 当村 氏子中」と記されている。笠と壊れた基礎の一部が残り、石灯籠の形を保つ。				●		
	12	石灯籠(北野天満神社)	大正3年(1914)	石灯籠。「大正三年五月 神崎郡 八幡村」と記されている。				●		
	13	石灯籠(北野天満神社)	大正3年(1914)	石灯籠。「大正三年五月 日野栄作」と記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

北 野

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	14	石灯笼（北野天満神社）	大正4年（1915）	石灯笼。「御即位記念 大正四年拾一月 当村青年社」と記されている。				●		
	15	石灯笼（北野天満神社）	大正4年（1915）	石灯笼。「御即位記念 大正四年拾一月 当村 長谷川善次」と記されている。				●		
	16	石灯笼（北野天満神社）	大正3年（1914）	石灯笼。雪見灯笼型。「当村 氏子中」と記されている。火袋なし。				●		
	17	石灯笼（北野天満神社）	不明	石灯笼。神前型。正面には「御神灯」、台石の正面には「当邑氏子中」と記されている。				●		
	18	手水石（北野天満神社）	寛政6年（1794）	手水石。正面に「盥漱」、背面に造立年月が記されている。				●		
	19	狛犬（北野天満神社）	明治44年（1911）	石造の狛犬。				●		
	20	狛牛（北野天満神社）	明治30年（1897）	石造の神使（牛）。				●		
	21	再建記念碑（北野天満神社）	昭和37年（1962）	神社再建を記念して建てられた石碑。				●		
	22	石段標（北野天満神社）	明治19年（1886）	左右一対の石段標。右柱正面に「氏子中」、左柱正面に造立年月が記されている。				●		
	23	石段標（北野天満神社）	明治45年（1912）	左右一対の石段標。右柱正面に「当村 長谷川十□□」、左柱正面に造立年月が記されている。				●		
	24	石段標（北野天満神社）	不明	左右一対の石段標。左右の柱の正面・背面に2名ずつ人名が記されている。				●		
	25	石段標（北野天満神社）	不明	左右一対の石段標。左右の柱の正面・背面に2名ずつ人名が記されている。				●		
	26	道標（地藏堂）	正徳3年（1713）	道標。地藏立像。正面には像容・造立年とともに「右ハひ免し 左ハ北条道」と記されている。両手で宝珠を持ち、像高約74cm、花崗岩製である。				●	●	
27	道標（北野西の池東）	明治25年（1892）	道標。正面に地藏菩薩の像容とともに「右 北条 左 亀坪日光」と記されている。				●	●		
美術工芸品 絵画	28	賤ヶ岳七本槍図（北野天満神社）	明治20年（1887）	奉納者は「当邑氏子中」とある。118×187cm。	●			●		
	29	義経八艘飛図（北野天満神社）	明治20年（1887）	奉納者は不明。109×182cm。	●			●		
	30	義経弓流し図（北野天満神社）	明治20年（1887）	奉納者は不明。109×182cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品	31 菅原伝授手習鑑図 (北野天満神社)	明治 20 年 (1887)	奉納者は「当邑氏子中」とある。118×187 cm。	●			●			
無形文化財	32 毬つき唄	大正時代	大正の頃の毬つき唄。		●					
有形の民俗文化財	33 屋台 (北野区)	大正 9 年 (1920)	布団屋根型屋台。地区の安全と五穀豊穡を願い、大正 9 年 (1920) 10 月に加西市本町より購入。平成 25 年 (2013) には、斗組水切り屋根を新調し、金物すべてにメッキを施し、美しい本来の北野屋台に仕上げられた。				●		●	
	34 その他の有形の民俗文化財 カ石 (北野長谷川家)	不明	2 個あったが、うち 1 個は盗難され、1 個のみ残る。				●			
	35 カ石 (地藏堂)	不明	1 個。54×35×27 cm。切付無し。				●			
無形の民俗文化財	36 年中行事・民俗芸能 田原 秋祭り	—	田原地区の屋台 12 台 (布団屋根型 10 台、神輿屋根型 2 台)・神輿 1 台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台で浄舞、浦安の舞が奉納される。			●	●		●	
	37 斎灯	—	2 月 3 日に北野天満神社で行われる。				●			
	38 夏まつり	—	7 月 25 日に北野天満神社で行われる。				●			
遺跡	39 東広畑古墳	古墳時代	直径約 16m の円墳と考えられる。入口は西を向いており、西にある西広畑遺跡と関係する墓とも考えられている。須恵器・耳環・勾玉の他、「亀甲繫単鳳文」という銀象嵌の模様が描かれた大刀や金メッキが施された馬具、銀線が巻かれた刀子などが出土している。平成 20 年度に古墳公園として整備されている。 【町指定史跡】		●					
	40 東新田古墳	古墳時代	約半分がつぶされているため、地元では「ツブレ塚」と言われている。直径約 16m の円墳で、銀象嵌が施された大刀が 2 振、馬具 2 セットなどの、豊富な鉄器副葬品を出土している。 【町指定史跡】		●					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
古墳・その他の墓	41 大畑 1 号墳	古墳時代	古墳時代の円墳。横穴式石室と思われる。須恵器を出土している。		●					
	42 大畑 2 号墳	古墳時代	古墳時代の円墳。横穴式石室と思われる。		●					
	43 大畑 3 号墳	古墳時代	古墳時代の円墳。横穴式石室と思われる。		●					
	44 大畑 4 号墳	古墳時代	古墳時代の円墳。横穴式石室と思われる。		●					
遺跡 散布地・集落跡・生産遺跡等	45 北広岡遺跡	弥生時代	弥生時代の遺物の散布地。石錘や石鏃、靱跡の付いた土器片などが採集されている。弥生時代中期のものと考えられる。		●					
	46 西広岡遺跡	中世	中世の遺物の散布地。		●					
	47 上大明寺遺跡	弥生時代	弥生時代中期後半の竪穴住居と掘立柱建物の遺構が確認され、竪穴住居の中からガラス玉などを出土している。		●					
	48 西広畑遺跡	弥生時代	旧石器時代のナイフ型石器が出土しているが明確な遺構は確認されていない。弥生時代中期後半の方形と考えられる竪穴住居や溝状遺構が確認されている。		●					
	49 北野散布地	弥生時代後期～平安時代	竪穴住居や掘立柱建物など、弥生時代後期から平安時代までの遺構が確認されており、弥生時代後期から平安時代まで継続する集落遺跡である。		●					
	50 池ノ谷中池遺跡	古墳時代	灰原と思われる黒色シルト層から、6世紀末から7世紀初頭の未成品を含む須恵器が数多く見つかり、近接する大畑古墳群等に須恵器を供給していた可能性がある。窯跡は確認されていない。		●					
	51 西田原穴田遺跡	縄文時代後期	縄文時代後期の遺跡。顕著な遺構は確認されていないが、石鏃、サヌカイト片、石錐、縄文土器が出土している。		●					
	52 北野寺西遺跡	弥生時代中期	弥生時代中期以降の円形周溝墓が確認され、辻川山山麓から出土した弥生時代中期の甕棺を含めて、上大明寺遺跡の墓域の可能性もある。平安時代の竪穴住居、中世の方形竪穴住居や掘立柱建物、溝状遺構も見つかっている。		●					
	53 北野寺山西遺跡	弥生時代～中世	弥生時代から中世にかけての集落遺跡。		●					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
遺跡 古道・街道等	54 生野鉱山寮馬車道	明治9年 (1876)	生野鉱山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉱山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。					●	●
	55 生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。					●	
名勝地 山岳	56 辻川山	—	辻川山にはかつて三木家により桃の木が植えられ、「桃山」とも呼ばれ、花見用のあずま屋もあったという。昭和初めころには、学校行事で、ウサギ追いも行われていた。大門宮山・妙徳山・辻川山の3つの小山は、遠方からは3匹の獅子が横たわっているように見えることから、三獅子山と呼ばれる。		●				
文化的景観 生活・生業・風土により形成された景観地	57 西光寺野用水(岡部川疎水路)	—	大正3年(1914)に完成した用水路。西光寺野土地改良区が所有・管理して、現在も農業用水路として利用されている。全長540mの煉瓦トンネルも残る(内部底面及び一部側面をコンクリートで補修)。			●			
	58 上井用水(堰溝)	—	江戸時代に作られた灌漑用の水路で、水路沿いに南北に生野街道が通っていた。明治4年(1871)の辻川村絵図にその名が見られる。			●			
	59 西の池	—	柳田國男の『故郷七十年』「兄嫁の思い出」に出てくる池。農業用のため池。昭和58年度に全面改修。			●			
その他 信仰の場	60 北野天満神社	—	学問の神様・菅原道真を祀る北野区の氏神。拜殿には、撫でると頭が良くなるといわれる牛の像(撫で牛)があり、鈴の森神社へと続く「学問成就の道」は合格祈願スポットになっている。春には梅の花が境内を彩る。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・北野屋台保存会を組織し、区に伝わる屋台の保存・継承並びに後継者の育成の取組を実施しています。
- ・自立（律）のまちづくり交付金事業を活用して、北野ふれ愛事業（区内の文化財めぐり）を実施しています。
- ・令和2年（2020）に公民館に保存されていた古文書整理を区役員により実施しました。



北野ふれ愛事業（区内の文化財めぐり）



古文書整理